かひやぐら蛤はいま睦みゐる

野本　京

席題や袋回しでは過去の思い出を総動員する。漁師の父と母は、深夜と早朝の海に出て鯛や海老を獲っていた。一人になった家で、私は心細さに何度も目覚めながら、港に帰る父の船のエンジン音に耳を傾けた。永田耕衣の「近海に鯛睦み居る涅槃像」の影響も。

昭和六十三年作